

みなさんの声と結んで  
議会で論戦 市政を動かす



市議会議員 日本共産党

ふじい克彦  
藤井かつひこ

—活動と主張—

藤井かつひこ 活動と主張

- ごあいさつ { P 3 }
- いのちとくらしをまもり、生活苦を軽減するために全力 { P 4 }
- 願い実現へ ねばり強く活動 中学校給食実現を求めて { P 5 }
- 相模大野駅東口にエレベーター・エスカレーター設置を求めて { P 6 }
- 住民の声を受け 住みよい街へ 一歩二歩 { P 7 }
- 米軍基地強化に反対 基地返還、基地被害をなくすために活動 { P 8、9 }
- 議会で論戦 ハイライト① 市長答弁を引き出し、一歩前進 { P 10 }
- 議会で論戦 ハイライト② 提案権を活用し住民の立場で奮闘 { P 11 }
- “藤井かつひこさんにインタビュー” { P 12、13 }
- 私も藤井かつひこさんを推薦します { P 14 }
- 日本共産党 藤井かつひこ はめざします { P 15 }
- プロフィール { P 16 }

## 「あいさつ」

相模原市議会議員（日本共産党） 藤井かつひこ

みなさんのご支援で、四期十六年、市議として働かせていただきました。

この四年間、派遣切り、ホームレスなど深刻な相談に数々直面し、その支援に力をつくしてきました。大都市に住みながら、「買い物が不便で困る」というお年寄りの声も聞こえてきます。

「いまこそ、くらし・福祉最優先で一人ひとりを大切に市政」実現へ、奮闘する決意です。引き続き、市政の場で働かせて下さい。

みなさんのご支援を、どうぞよろしくお願い致します。

いのちとくらしをまもり、生活苦を軽減するために全力



生活相談に親身に対応し、生活保護行政・窓口対応の改善、ホームレスの救済など、全力でとりくんできました。

また、派遣村相談会を相模原ハローワーク近くの中央公園（富士見）で市民団体とともに2009年12月、2010年3月、2010年12月と3回実施してきました。

2010年7月、私は失業中。時同じくして家内は国の特定疾患の診断が下されました。市の福祉事務所に行っても、文面では書けないほどの言葉をあびせられ、県の各政党に疑問のメールを送付しました。

次の日に日本共産党相模原市議の藤井さんから電話が入りました。すぐに会って相談にのっていただきました。私にこれからの最善の方法を一緒に考えて下さり、また福祉事務所に出向いて、私に対して言った言葉を撤回させ、2日後に市議会で、市長に対し、生活保護制度の周知徹底及びケースワーカーの不足で親身な対応ができていないのか、など質問をされました。

藤井さんは私に言いました。同じ相模原市民としてがんばっていこう、僕も相模原市を良くするために市政で全力をつくすよと。どんな問題でも行動力と、まちがっている悪政にはきっぱりとモノが言える藤井さんは、相模原市には必要、欠かせない人だと思っています。

{相南在住 T・Y 49歳}



# 願い実現へ ねばり強く活動

中学校給食実現を求めて

中学校給食の実現を求め、署名を集める地域活動がありました。



2008年2月  
中学校給食を  
考えるシン  
ポジウムに  
参加。



2010年11月  
からデリバリ  
ー方式で中学  
校給食がスタ  
ート。2年間  
で全校実施。



自校調理方式  
へとさらなる  
充実をめざし  
ます。



# 相模大野駅東口にエレベーター・エスカレーター設置を求めて



相模大野駅東口（谷口・国道16号側）昇降口には、北側・南側ともに、エレベーターやエスカレーターがなく、特に南側の階段は45段でキツイ！

小田急電鉄社への要望署名活動を2007年3月に開始。



2007年9月、小田急電鉄社に申し入れ（第2回）



2010年4月、小田急電鉄社に申し入れ（第3回）。



2008年1月、相模原市に後押しを要請。





2007年8月、かわの県議、市民団体とともにキャンプ座間在日米軍と相模原市長に基地強化反対を申し入れ



2007年10月、グリーンホール相模大野でのキャンプ座間への米軍新司令部設置に反対する集会で発言。



2007年12月、キャンプ座間への米軍新司令部設置に反対する首都圏大集会に参加。



米軍基地強化に反対 基地返還、  
基地被害をなくすために活動

雨が降ると公園から道路に水があふれ出て来る、という苦情を受けて(2009年6月)、市に交渉し改善されました(道路側と公園中央部)



相模大野・文京 相模女子大通りの歩道・街路樹の部分の段差解消 (2007年～2008年の冬)。



住民の声を受け  
住みよい街へ 一歩一歩  
松が枝公園の排水対策を強化

# 議会で論戦 ハイライト①

——市長答弁を引き出し、一歩前進——

妻(要介護5)の認知症が進行し、対話も歩行もできなくなってしまった。特養ホームに申し込んでいるが、待機者が現在約500人で、待機の順番を問い合わせると93番とのこと。退所者(ほとんど死亡)は年間平均で5名程度なので、「20年待ち」で入所は絶望的。市はこうした実態を把握しているのか! {80代男性}

この切実な声を議会で市長にぶつけ、市の特養ホーム整備計画が待機者を解消するものになっていない問題を指摘。市長の「(待機者)ゼロ、解消に向けて進んでいくべき」との答弁を引き出し(2009年9月議会)、その後、整備計画の目標が百床、上積みされました。

古くなった小学校校舎屋上の壁から重さ10kgのモルタルが落下した事故を議会で取り上げ、子どもたちの安全を守る市長の責任を追及。

「財源を確保して最優先で取り組みたい」との市長答弁を引き出し(2010年3月議会)、学校校舎大規模改修工事のテンポを2倍にアップさせました。



特養ホーム整備計画  
目標を百床アップ



学校校舎の老朽化  
改修の遅れをただし促進  
大規模



厚木基地周辺住民の会主催：2009年4月「爆音なくせ! 厚木基地シンポジウム」に参加。

まわりの人にも呼びかけて、第四次厚木爆音訴訟に原告として参加し、2007年11月第1回原告団代議員総会に参加。



2010年5月、国民平和行進に参加し、核兵器廃絶、基地強化反対をキャンプ座間正門前でシユプレヒコール。

相模総合補給廠での不発焼夷弾の爆破処理に抗議し、地下埋設の経過や実態の徹底究明等を求めて防衛省に申し入れ(2010年9月)。



## 議会で論戦 ハイライト②

——提案権を活用し住民の立場で奮闘——

予算組替動議を提出し、住民が反対している予算（新交通システム・BRT導入経費）の削減を提起

市は新交通システム・BRT導入基本計画案を、導入ルート周辺住民に何の説明もおこなわないまま2009年2月、唐突に公表。これにたいして、住民から強い反対運動が広がりました。

2009年3月議会で藤井市議は党市議団を代表し、他会派議員に呼びかけ共同で、新交通システムBRT予算（導入ルートの現況測量費と予備設計費、計18,422,000円）を減額する予算組替動議を提出しました。

しかし新政クラブ、公明党、民主クラブ、社民党等の相模原市民連合は予算組替動議に反対し市長提出の新交通システム・BRT推進予算を

容認してしまいました。

その後も反対運動は強まり、1年後の2010年3月議会でこの新交通システム・BRT予算は執行されないまま全額返上されました。

議会が予算を削減していれば、住民は1年の間、不安な日々を過ごさずに済んだのです。住民の立場でチェック機能を発揮する議会になるよう、日本共産党と藤井かつひこ市議は奮闘します。



“藤井かつひこさんにインタビュー”

〔Q1 共産党との出会いは?〕

大学に入ったばかりの時に、ひょんなことから出会った先輩が共産党員でした。大学で学ぶことについて、また自分の人生と社会のあり方について、こんなにまじめに考えている人がいるのか、と驚き、またひかれました。

一方で、共産党の人と話すことは初めてで、「共産党」という言葉を聞いただけでビックリして、その場を逃げ出してしまいました。

そんな「共産党は避けて通りたい」というばくぜんとした不安が消えるまで半年かかりましたが、政治の右傾化が進むなかで、戦前、迫害に屈せず侵略戦争反対、主権在民と自由・民主主義の主張をつらぬいた日本共産党に伸びてほしいと思うようになりました。そして自分も若い世代の一人として戦後民主主義を守り発展させる運動に加わろうと決意し、日本共産党に入党しました。内気で引っ込み思案な性格を変えたいという思いもありました。

〔Q2 市議にと決意したのは?〕

大学を卒業し就職してからも共産党

藤井かつひこさんは、市民の悩みや苦しみに、直ちに行動、解決のために力を注いできました。この「行動力」とともに、政令市移行や市の財政について見せた「政策力」も抜群です。

道路の未整備、福祉施設の不足など市民要求が無視され続け、耐え難い米軍機の爆音の続く相模原市。住みやすい、市民が主人公のまちに変えるために藤井さんはかわの県議とともに欠かせない議員です。一層の活躍を期待します。

日本共産党相模原市南区東部地域連合後援会  
会長 海老沢 勲

私も藤井かつひこさんを推薦します

- 伊藤 敬一 (相模大野・東大名誉教授)
- 吉村 定信 (西大沼・神奈川土建一般労組副委員長)
- 中屋 重勝 (東林間・神奈川北中央医療生協理事長)
- 鈴木 秀子 (のぞみ助産院院長)
- 長谷川倫雄 (さがみ生協病院院長)
- 小川 水草 (上鶴間本町)
- 遠藤エツ子 (若松)
- 久保ヨシミ (栄町)
- 杉山 彰雄 (上鶴間)
- 篠田 哲守 (古淵)
- 最勝寺敬一 (東林間)



住みよい相模原へ藤井かつひこ市議と力を合わせます。

県会議員 かわの幸司

の活動を続けていきましたが、三十四歳の時に党から相模原市議への立候補の要請があり、まさに“青天の霹靂”でしたが、「地域で思いっきり日本共産党への支持を訴えてみたい」という思いがつのり、立候補を決意しました。

〔Q3 議員活動のなかで思うことは〕

日々の生活相談のなかで、「困った時には共産党に相談しろ」と知人に言われて来た「電話帳で探して共産党の事務所に電話した」など、日本共産党が日本社会のなかで「信頼のブランド」になっていることを実感し、身の引き



東林間駅前で訴える藤井かつひこ議員

締まる思いです。そして、市民生活の現場で起きている問題に行政の適切な対応を求めて解決していく、そこ

で自分が役割を果たせることに喜びを感じています。

同時に 議員は議会という公の場で、市民の代表の一人として市長と対等に議論ができ、市民の声や願いを行政に生かすことができます。議会での論戦も、“市民の願い、一歩前進”の大きな力との思いで全力を尽くしています。

## 藤井かつひこ プロフィール

1960年名古屋市に生まれる。

都立駒場高校、早稲田大学法学部卒業。

三井金属鉱業（株）勤務 {川崎市高津区・機器事業部（当時）、神奈川県公立学校事務職員（津久井郡城山町立湘南小学校、津久井町立中野中学校勤務）}。

1995年相模原市議会議員選挙に初当選。

以後4期16年、相模原市議会議員。

現在、市議会・建設常任委員会副委員長、基地対策特別委員会副委員長、政令指定都市に関する特別委員会委員。党市議団長。

家族は妻。

趣味は映画・演劇鑑賞、旅、将棋、中国象棋。

相模原市南区旭町に在住。

—日本共産党の政策を紹介します—

相模原市民新聞 2011年号外

日本共産党相模原市委員会  
相模原市中央区中央1-10-10  
TEL: 042-757-1613

## 日本共産党 藤井かつひこ は めざします

—今こそ、暮らし・福祉最優先で、  
一人ひとりを大切にする市政を—

- (1) 市民の命と暮らしをまもり、福祉を充実
  - 生活保護行政の改善、「貧困ビジネス」の横行を許さず公共の責任で支援体制確立
  - 国保税を1人当たり1万円引き下げ
  - 特養ホームの整備を促進して待機者を解消。  
在宅介護24時間支援体制を確立
  - 公園に高齢者向けの健康遊具を設置
- (2) 子育て支援を充実し、ゆきとどいた教育を
  - 子ども医療費無料化を所得制限なく中学3年まで
  - 保育所増設で待機児解消
- (3) 地域経済の活性化、農林業の振興
  - 住宅リフォーム助成の拡充
  - 公契約条例制定
- (4) 環境まもり、安心して住民本位のまちづくり
  - バス交通充実、乗り継ぎ運賃の負担軽減
  - 相模大野駅東口にエレベーター・エスカレーター設置
- (5) 米軍基地の強化反対、爆音被害解消、基地返還
- (6) 住民福祉を増進する市の公共責任堅持し、市民自治を拡充。市民の声が反映する議会に
- (7) 市民向け施策充実のための財源を確保